第１回 JESUS（Japanese skill education for young gastroenterological surgeons）を開催して

JESUS 実行委員長　夏越祥次

1. 開催の目的

外科医不足が現実化する中，日本消化器外科学会として学生・研修医の皆さんに対して，消化器外科の魅力をアピールする必要があるという気運が高まってきた．すでに産婦人科，眼科，心臓血管外科，呼吸器外科などではサマースクールやセミナーが開始されている．本学会も遅ればせながら，消化器外科手術手技講習会を始めることになった．

さて，JESUS（ジーザス）はイエス・キリストの「イエス」を英語で発音した単語である．各種の消化器癌や穿孔，出血など消化器緊急疾患の患者さんが「神様，助けてください」という状況に対して，救いの手を差し伸べることができる外科医になってほしいという願いが込められて命名された．

2. 開催までの道程

先行する他学会の開催状況や内容を参考にしながら，日時，場所，参加対象および人数を調査することになった．日時は準備等の関係で，７月から９月，場所はリラックスしながら講習が行える温泉地，対象は第１回目なので，消化器外科希望あるいは外科系希望の前期研修医とした．数か所の候補地から，比較的交通の至便が良い熱海を第一候補とした．2014 年 11 月，会場となる熱海伊豆山温泉ハートピア熱海の下見を行い，雰囲気は申し分なく，会場数とスペース，宿泊人数を勘案して約 100 人規模が適当と判断した．

各種機器に関してはジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社に共催の承諾を得ることができた．広報委員会で，講習内容，講習費，時間割，テキストなどが議論された．さらにワーキング・グループの設置が提案され，新たに 6 名の先生方がメンバーとして加入した．広報委員会，ワーキング・グループで議論を数回行い，最終的に講習内容は，腸管吻合，トレーニングボックスを用いた縫合結紮，シミュレーターを用いた手術手技，セミナーの４部構成となった．またグループの配分や時間割，夕食，二次会等の内容についても熱い議論が行われた．魅力的かつ楽しいプログラムにするために夕食時にはクイズ，二日目には結紮コンテストを行い，それぞれに賞品が準備されることになった．また，広報委員会，ワーキング・グループの委員を含め，全国から 22 名の講師の先生方に協力していただくことになった．

さて，参加者の応募段階になったとき，開催までの募集期間が短いため，実際にどのくらい参加者が集まるか見当がつかなかった．最初は応募者の出足が遅かったが，次第に増加し最終的には 107 名の参加予定となった．キャンセルが 7 名あり，最終的な参加者は男性 82 名，女性 18 名の計 100 名であった．ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社との打ち合わせで，腸管吻合用のブタ腸管や縫合セット，ドライボックス，シミュレーターを準備していただいた．また講演は植竹宏之先生（大鵬薬品工業株式会社共催）と山口佳之先生（日本化薬株式会社共催），海堀昌樹先生から快諾が得られた．

3. 開催前日（2015 年 9 月 4 日）

広報委員会とワーキング・グループの一部のメンバーは前日に熱海入りした．器械吻合が隆盛な昨今では，研修医は手縫いの腸管吻合の経験が少ないと考えられ，先ずデモ用の腸管吻合のビデオ撮りが行われた．夜になって日本全国から集められたトレーニングボックスが搬入されたが，20 台以上が並べられた会場は壮絶な雰囲気であった．ジョンソン・エンド・ジョンソンの皆さんと事務局の夜を徹しての設置で何とか開始までたどり着いた．

4. 開催日（2015 年 9 月 5 日，6 日）

午前 11 時頃から全国より参加者が会場入りし，11 時 40 分から開会式が行われた．その後，各班 5，6 名ずつ 18 班に分かれ，さらに A から D の 4 つのグループに配属された．4 つのグループが各々腸管吻合，トレーニングボックスを用いた縫合結紮，シミュレーターを用いた手術手技，セミナーを開始した．各グループとも参加者が非常に熱心に取り組んでいる雰囲気が伝わってきた．腸管吻合は慣れていないせいか，てこずる場面が多く，講師陣も汗だくで教えていた．トレーニングボックスは数が多く，参加者も十分に練習ができたと思われたが，シミュレーターは数が限られていたため，待ち時間の間に縫合結紮の練習にあてられた．セミナーはグループ構成の関係上，異なる内容であったが，参加者は興味をもって聞き入っていた．全体を通じて時間が限られていたため，参加者はそれぞれのプログラムに対して，懸命に取り組んでいた印象であった．夕食までの空き時間は，休憩および入浴時間にもあてられていたが，トレーニングボックスがすべて使用され，待ちが出る程，多数の参加者が頑張っていた．

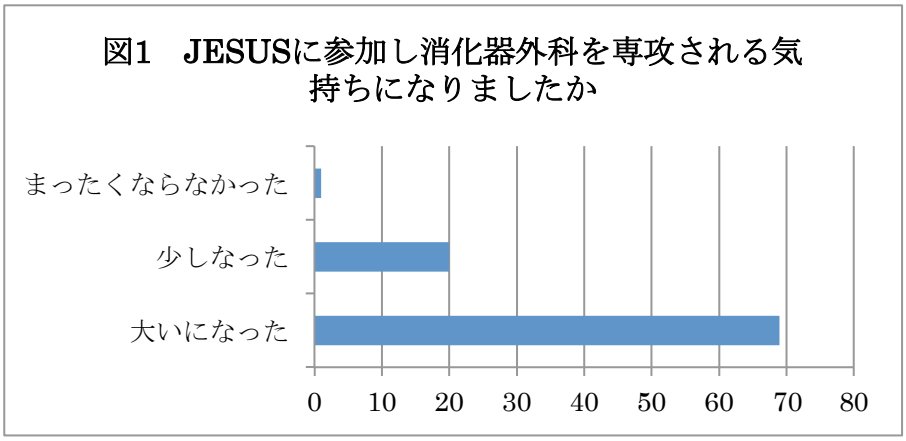
夕食は和気藹々とした雰囲気のもとで始まった．講師陣の自己紹介で歓声が上がり，ワーキング・グループの一人で，クイズ発起人の又木雄弘先生の学問的問題（食道の長さは 40 ㎝であるなど）あるいは面白い問題（大杉治司先生の専門は大腸であるなど）で盛り上がり，1 位から 3 位が決定する時に最高潮を迎えた．その後，2 部屋に分かれて講師陣と参加者の間でスモールミーティングが行われ，外科の魅力や外科医の将来像などについて夜遅くまで話に花が咲いた．

2 日目は，天候の悪化が危惧されたため，朝一番に記念撮影を行った．その後，トレーニングボックスを用いた結紮のコンテストが行われたが，予選では全員が真剣に頑張っていた．決勝に進んだ参加者の結紮の速さは，講師陣もびっくりするほどであり，若者の潜在能力と飛躍的な上達に驚嘆した．アンケートの記載後に，各グループ代表のあいさつと講師のあいさつでセミナーの幕を閉じた．その後，皆さんは三々五々帰路についた．

5. アンケート結果

開催時期は夏休み明けということで多少心配したが，全員が適当という答えであった．良かったプログラムは腸管縫合が最多であり，外科の基本である自らの手による縫合結紮に関心が高いことに安堵感を覚えた．実技の時間に関して，もう少し長い方が良い 62%，ちょうどよい 38%，短くて良い 0%であり，かなり意欲をもって演習していたと思われた．今回の経験

が今後に役立つと答えたものが 80%であった．今回参加することによって消化器外科を専攻する気持ちになったかという問いには，大いになった 77%, 少しなった 22%を合わせると 99%を占めたことは，まずまずの成果が得られたと考えられた（図 1）．



第 1 回目ということで，立案から実行までの期間が短く，試行錯誤であったが，終了後には思った以上の出来栄えであったと感じられた．広報委員会，ワーキング・グループを含む講師陣の皆さんの表情には達成感がみなぎっていた．

後日参加者には学会から集合写真付きの JESUS 終了証が送付され，良い思い出になったのではないかと推察された（図 2）．

JESUS 修了証

消化器 一郎　殿

貴殿は　Japanese skill education for young gastroenterological Surgeons (JESUS) 2015 において　所定の講習を受講し修了したことを証します

2015年 9 月 6 日

一般社団法人 日本消化器外科学会
理事長　瀬戸 泰之
JESUS 実行委員長　夏越 祥次

JESUS 2015 in 熱海（2015.9.5~9.6）

図 2　修了証

6. 今後に向けて

1回目のJESUSが終了したが，参加した講師陣，事務局の方々は，何らかの手ごたえを感じられたと思う．参加者のアンケート結果や参加した講師の先生からは，来年度も是非開催した方が良いという意見であった．そこで，早速2016年9月2，3日に会場を予約した．今回の経験をもとにさらに改善できることを検討し，第2回目の開催に向けて準備を進めていきたい．

今回のJESUSが消化器外科医の増加に直ぐに結びつくかは疑問である．少なくとも今回は，研修医あるいは社会に対して「種」をまいたところである．次第に研修医や学生の間に口コミで伝わり，積極的に応募する人が増えてくれば，「芽」が出てくるであろう．さらに消化器外科は面白いと思う若者が次第に増え，会員の増加につながる時にはじめて「花」が咲くと言えよう．そのような時期が早く来ることを願いながら，学会会員全員で「JESUS という木」を育てて欲しいと思う．